

2020（令和2）年度 各事業の中期計画に係る進捗および評価について

2021（令和3）年3月5日確定版

| 評価 | 評価内容及び基準 |
|-----------------------|---|
| Ⅳ 各年度の計画が特に進捗している | <ul style="list-style-type: none"> ・達成度が計画を大幅に上回る場合 ・当該年度中に予定より早期に実施した場合 |
| Ⅲ 各年度の計画が進捗している | <ul style="list-style-type: none"> ・達成度が計画どおりと認められる場合 ・当該年度中に実施した場合 |
| Ⅱ 各年度の計画が概ね進捗している | <ul style="list-style-type: none"> ・達成度がやや下回るものの概ね計画どおりと認められる場合 |
| Ⅰ 各年度の計画の実施にあたって課題がある | <ul style="list-style-type: none"> ・達成度が計画より大幅に下回る場合 ・当該年度中に実施できなかった場合 ・計画設定そのものに問題がある場合 |

課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|----------------------|--|--|--|
| 1.大学と高校の有機的な接続・連携の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・高大の連携・接続の課題を継続的に検討する。 | (取組1) <高大連携・接続の検討> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携・接続にかかる課題をテーマとして「フォーラム」を継続的に開催する。 | (取組1の活動指標) フォーラム：年1回開催 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム形成大学にかかる情報の一元的な発信 | (取組2) <情報発信> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや見学会の日程等を一元管理し、ホームページで情報発信する。 | (取組2の活動指標) <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム形成大学からWEBシステムを通じて適宜情報を収集し、ホームページで発信する。 ・各教育委員会を通じて大阪府下の全高校に周知する。 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) |
|---------------------|---|---|
| 【取組1】 高大連携・接続の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・(第1回)2020年9月開催 参加者数：83名 ※2020年2月に開催予定だったものを新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期して開催。 ・(第2回)2021年3月開催予定 | Ⅲ <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は延期分を含めてフォーラムを2回開催し、コロナ禍における大学入試やICT教育といった高大双方とも苦戦を強いられている課題を取り上げ、先行事例を共有することで大学関係者はもとより高校関係者にも各テーマのリアルな動向について情報発信することができた。 ・オンライン開催によってこれまで参加が難しかった府外の高大関係者にも学びの機会を提供でき、第1回には全国から計83名の参加が得られたことも評価できる。 |
| 【取組2】 情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・従来のHP情報を受験生向け、保護者(高校)向けに区分し、それぞれ充実した内容へと大幅に改訂した。 ・府下の高校3年生を対象にプラットフォーム形成大学情報を掲載したハンディブックレットを作成し、10万部配布した。(大阪府教育委員会等の協力により2020年8月に配布) ・上記2点の取組にあたり、WEBシステム等を使用してプラットフォーム形成大学の情報を収集した。 | Ⅳ <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や保護者など対象に応じたよりの確かな情報が発信できるよう、媒体や情報の選別から見直し、HP、ハンディブックレットともに充実した内容とすることができた。 ・コロナ禍によりオープンキャンパスなどに足を運ばず大学に関する情報収集が難しい高校生にむけてハンディブックレットを作成し、大阪府教育委員会等の協力を得て10万部配布できた。この取り組みは一大学では成し得ないものであり、コンソーシアムならではの成果を上げることができた点は高く評価できる。 |

課題2 単位互換プログラムの充実

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|----------------|-----------------------------------|---|--|
| 2.単位互換プログラムの充実 | ・単位互換科目をより多くの学生が受講できる戦略的な環境を整備する。 | (取組1) <単位互換の充実> ・単位互換科目を一般教養科目や卒業単位として認められるよう、全プラットフォーム形成大学に働きかける。 ・近隣大学間での単位互換を推進するよう、検討・調整を図る。 | (取組1の活動指標) ・前年の出願者数の10%増加を目指す。 |
| | ・学生のニーズに合った新たなプログラム科目の実施 | (取組2) <プログラムの充実> ・低学年の学生が交流し合えるプログラムを企画・実施する。 ・学生のニーズに合った特徴的なプログラムを開発する。 ・各大学の寄附講座を単位互換科目として提供していただくよう調整を行う。 | (取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学間で独自開発した単位互換科目を2科目以上開講する。 |

2020年度 自己評価

| 計画 | | 実績 | 評価(現況) |
|-------------------|---|--|---|
| 【取組1】 単位互換の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・出願方式を従来の紙出願に加えてWebで完結する方式も選択できるよう柔軟な運用を継続する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大等の不測の事態に備え、ガイドラインの検討・整理を行う。 ・学生や教職員に単位互換の内容や講師像、効果がわかるよう、情報発信の方法を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 【出願者数】 延べ671名 (前年 810名 前年比: 82.8%) ・コロナ禍対応にかかる申し合わせ事項を作成し、柔軟な対応を行った。 ・単位互換授業の様子がわかるような動画をさらに工夫を加え作成し、HPに掲載 | <p>II</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により、前期は学生の送り出しや受け入れを取りやめる大学が相次ぎ、昨年の出願数を大きく下回ったが、後期はマイナス幅が縮小し、通期では-17%となった。 ・オンキャンパス科目の出願者数は168名で前年の3.5割減(前年度: 256名)と、コロナ禍によって人の移動制限による影響が色濃く表れる結果となった。一方、センター科目は遠隔授業を積極的に取り入れるなどして、後期科目は予定通りすべて開講できた。それによって出願者数は503名で、前年の1割減(前年度: 554名)に留まり、学生の学習機会の喪失を回避することができた。 ・今般のコロナ禍で得た遠隔授業のノウハウ(一部の科目では、対面とオンラインを併用した授業を実施)を大学間で共有しながら今後も有効に活用していきたい。 |
| 【取組2】 プログラムの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズに合った特徴的なプログラムの独自開発を目指し、実施に向けて検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年AI講座の試行結果を踏まえ、単位互換プログラム化を見据えた運営体制を検討し、またプログラムをそれに沿う形として試行予定。 | <p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年のAI講座の試行では、受講者から継続を希望する声や大学教職員からも学内のカリキュラムに組み込みたいなどとの感想が寄せられ好評を得た。この結果を受けて、次のステップとして単位互換科目化を意識したプログラムを検討し企画案を作成し実施に向けて調整中である。 |

課題3 インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|-----------------------------|---|--|---|
| 3.インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発 | ・参加学生の就業意識と企業に対する関心を高め、地元(大阪)に定着させる。 | (取組1) <就業体験型インターンシップ> ・産業界とのコネクションの強化、各種団体や中小企業・ベンチャー企業などの特長ある受入先とのインターンシップの拡大、対象学生の学年の引き下げの検討、海外インターンシップ実施の検討などを行う。 ・事務局に受入先の開拓やコーディネートなどのできる専門員の配置を検討する。 | (取組1の活動指標) ・インターンシップ先の受入れ10%増(受入企業・団体数) ・専門員の配置: 1名 |
| | ・在阪の企業や官公庁等とのインターンシップを拡充することで、有為なプログラムを充実させる。 | (取組2) <プロジェクト型インターンシップ> ・自治体や産業界などと連携して既存プログラムの再編・新規企画の立案を検討する。 ・プラットフォーム形成大学における教職員の参画の可能性について検討する。 | (取組2の活動指標) ・プロジェクト型インターンシップを毎年度1つ以上実施する。 ・プラットフォーム形成大学からプロジェクト型インターンシップへの参画教職員数: 2名 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) | |
|------------------|---|--------|--|
| 【取組1】 就業体験型 | ※コロナの影響により実地を伴う実習は一律中止。 ・おおさか就活クエスト【参加学生数(全6回)】 15大学延べ71名 【協力先】 企業4件、自治体2件 【企画・実施に係る参画教職員数】 13名 ・低学年向けプログラム(1・2年生対象) 【参加学生数】 8大学15名 【協力先】 企業2社 【企画・実施に係る参画教職員数】 2名 | III | ・おおさか就活クエスト コロナの影響により、従来の就業型インターンシップに代えて、「おおさか就活クエスト」(働き方の探求プログラム)を新たに立ち上げ、オンラインツールを駆使したプログラムを6本試行した。緊急事態宣言解除後にいち早くオンライン・プログラムの構築・実施に着手できたことは高く評価できる。またこのオンラインプログラムの運営ノウハウを他事業でも応用するなど、先駆的役割が担うことができた。 ・低学年(1・2年生)向けプログラム 2020年6月に開催予定だった低学年向けプログラム(在阪企業の魅力に早期に触れることが目的)はコロナの影響で2月に延期し、「おおさか就活クエスト」のノウハウを生かしたオンライン・プログラムとして開催した。プログラムは「スポーツ」をテーマに、その業界を支える大阪の中小企業の魅力を知ることが目的としたもので、企画にあたってはインターンシップ部会推進委員2名及び、大阪商工会議所、大阪の特色ある中小企業2社に協力を得るなど、産官学の連携を活かした内容を実現することができた。 |
| 【取組2】 プロジェクト型 | ※コロナの影響により実地を伴う実習は一律中止。 ・2021年2月に、来年のプロジェクト始動に先駆けて、オンラインによるプレプログラムを開催。 【参加学生数】 10大学19名 ・プロジェクトの内容から、コーディネーターに専門人材の登用が必要として、インターンシップ業務を専門に行っているNPO法人に業務委託し、参画教職員1名に代える形とした。 | III | ・2020年夏季に本プログラムを実施予定だったが、コロナの影響により実施時期と内容を変更した。次年度のプロジェクト始動に先駆けて、2021年2月に「大阪就活クエスト」のノウハウを生かした、オンラインによるプレプログラムを実施予定としている。 ・このプロジェクトは昨年実施したプロジェクトの成果が区で高く評価されたことを受けて、今回は長期的に学生が西淀川区の魅力発信に関わる形として始動させることとなったものである。西淀川区内には大学がないが、そのような地域が大学コンソーシアム大阪と連携によって学生の力を地域に活かすことができる格好の事例をつくることができた。 |

課題4 グローバル化に対応できる学生や教職員を目指すための機会の提供

課題8 内なる国際化の推進

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|----------------------------------|--|--|--|
| 4.グローバル化に対応できる学生や教職員を目指すための機会の提供 | ・グローバルに活躍できる学生やそれを支える教職員の学びの場の更なる機能の充実を図る。 | (取組1) <他国・他地域との交流> ・台湾財団法人高等教育国際合作基金会との交流を継続し、高等教育会議(シンポジウム)を開催する。 ・学生交流について、プラットフォーム形成大学のニーズ調査や課題を検討する。 ・海外からの留学生受け入れのノウハウ等を学ぶ機会として職員交流を行う。 | (取組1の活動指標) ・高等教育会議(シンポジウム)の開催(2年に1回) |
| | | (取組2) <グローバル人材育成事業> ・グローバル人材育成講座、国際学生・留学生の国際交流イベントを継続実施する。 ・上記講座の単位互換科目化を目指し、プラットフォーム形成大学間で検討を行い、案を作成する。 ・プラットフォーム形成大学の学生や教職員に広く周知するため、リーフレットを作成し、配布する。 | (取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学の10%の大学が参加。 ・単位互換科目としてのプログラムの開発と単位付与大学の選定を行う。 ・作成したリーフレットを全てのプラットフォーム形成大学へ配付する。(毎年1回) |
| 8.内なる国際化の推進 | ・受入留学生が、安心して生活、修学、就職に取り組めるように、環境整備を行う。 | (取組1) <留学生の環境整備> ・留学生の地域社会とのつながりづくりを支援する方策を検討する。 ・留学生と国内学生の交流拡大を視野に入れて、留学生の事業への参加促進案を検討する。 | (取組1の活動指標) ・SUCCESS-Osakaの活用も視野に入れながら、留学生への支援策を策定する。 |

2020年度 自己評価

| 計画 | | 実績 | 評価(現況) | |
|---|--------------------------|---|---|--|
| 4 教職員を グローバル 化するための 対応できる 機会の 提供 学生や | 【取組1】 他国・他地域との 交流 | ・FICHER(台湾財団法人高等教育国際合作基金会)との交流を教職員や学生に広げるため、会員ニーズに加え、これまでの交流内容を検証しながら、具体的な企画の検討を進める。 | ・新型コロナウイルス感染が収束していないことを受けて、交流事業については一律中止。 | Ⅲ -左記の理由のため、未実施のため評価なし。コロナが収束した段階で、交流を再開予定。 -本講座を受講した学生のビジネスプランが講師の支援によって実際の企業との連携に繋がるなど副次的な広がりが見られたことも評価できる。 -今回のオンライン開催への移行は会場(梅田)から遠方のため来場が難しかった学生も受講機会が得られ、門戸をさらに広げることに繋がった。単位互換科目化の検討にあたり、会場が課題の一つとなっていたことから、この経験を生かし、更なる検討を進めていきたい。 |
| | 【取組2】 グローバル人材 育成事業 | <p><グローバル人材育成講座> ・時宜に応じたテーマや内容によるプログラムを検討し、オンラインなどを含め、学生にとって受講しやすい形態の講座を提供する。 ・プログラムの単位互換科目化を視野に入れ、その方策について継続検討する。</p> <p><学生英語プレゼンテーションコンテスト> ・プラットフォーム形成大学の国内学生・留学生の相互交流と高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与するため、「学生英語プレゼンテーションコンテスト」を継続実施する。 ・上記事業の実施にあたり、プラットフォーム形成大学や学生に対し事業の魅力や成果の発信のために、広報媒体を工夫し、周知を行う。</p> | <p><グローバル人材育成講座> 【受講者数】 8月実施分 (2020年8月～9月の3回プログラム) 6大学(会員大学の15.4%)・27名 3月実施予定(申込状況) (2021年3月の4回プログラム) 11大学(会員大学の28.2%)・38名</p> <p><学生英語プレゼンテーションコンテスト> 【参加の個人、チーム数】 個人 3名(うち留学生2名が参加) チーム 10組(うち留学生6名が参加) 運営学生メンバー 4大学7名(有志)</p> <p>・上記の開催にあたり、リーフレット、チラシの作成・配布、またHPを作成し、周知強化を図った。</p> | |
| 8 内なる 国際化の 推進 | 【取組1】 留学生の環境整備 | 課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ | 課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ | Ⅲ ※事業に関しては、課題4 取組2の「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と同じ ・コロナ禍の影響により留学生においては国内学生との交流が一層難しい状況にある中、本コンテストや参加者間の意見交換の場を通じて交流機会を提供できたことは留学生支援の観点においても大きな意義があった。 |

課題5 学生主体の地域連携促進による大阪の活性化

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|------------------------|--|--|--|
| 5.学生主体の地域連携促進による大阪の活性化 | ・プラットフォーム（大学コンソーシアム大阪）独自の連携事業を確立し、地域連携を推進する。 | <p>（取組1）＜地方自治体からの受託事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム形成大学のメリットになることを判断基準とし、受託の可否を決める。 ・これまでの受託事業での経験を活かし、自治体や産業界にアピールすることにより、更なる受託事業を開拓する。 | <p>（取組1の活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市や大阪府（府下自治体含む）等の受託事業先を開拓する。訪問自治体数：3件 |
| | | <p>（取組2）＜地域連携事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域連携 学生フォーラムin大阪」がより一層学生主体の企画・運営の取り組みとなるよう、環境整備を行う。また、自治体や産業界に積極的にPRし、新たな地域連携創出の機会を提供する。 ・大学や自治体の交流を主とした「地域連携情報交換会」を開催する。 ・自治体と連携強化を図るためのニーズ調査や部会間との連携を通じて、地域連携のためのコーディネート機能を強化する。 ・既存の地域連携データベースを自治体のニーズに対応できるように再構築する。 | <p>（取組2の活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加大学数：20大学以上（プラットフォーム形成大学の50%） ・自治体と共同事業に関する意見交換の場を設定する。 ・地域連携データベースの改修の具体化 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価（現況） |
|---|--|---|
| <p>【取組1】 地方自治体からの受託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪を4ブロック（大阪市内・大阪北部・大阪東部・大阪南部）に分け、そのエリアに所在する大学や自治体関係者による情報交換会を継続開催する。 ・情報交換会などを通じて、大阪府、大阪市をはじめとする自治体へ大学コンソーシアム大阪のPRや情報収集を継続して行う。（ホームページの改修等） | <p>※コロナの影響により、情報交換会の実施は中止。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の大学との連携状況や大学・大学コンソーシアムに対するニーズ調査を実施。 ・東成区サステナブル企業認証制度に参画（2020年8月） | <p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、大学においても地域活動ができない状況を踏まえて、やむなく一律中止とする判断に至った。これに伴い、今年度は大阪府下の大阪市・大阪府の本庁を除く、73自治体に対して大学との連携状況や大学・大学コンソーシアムに対するニーズ調査を実施した。この調査から、大学コンソーシアムに対する認知は25件中6件（24.0%）に留まっており、定期的に自治体に情報発信するも、人事異動が要因となって組織内で情報が蓄積されず、属人的な情報共有に留まっている実態が把握できた。一方で、大学連携に関心の高い自治体が具体的に把握できたことから、まずはそこにアプローチし、具体的な連携へと繋げていきたい。 ・東成区からの依頼により区の「サステナブル企業認証制度」に参画した。本件はこれまでの区との情報交換などによる関係づくりがきっかけとなって実現したものであり、これまでの積み重ねが実質的な連携を生む好事例となった。（事務局にて対応） |
| <p>【取組2】 地域連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> （地域連携学生フォーラム） ・学生主体の企画として継続実施し、発表方法の工夫など、より学習効果の高いものとする。 ・新たな連携創出の機会提供を目指し、自治体や産業界にも積極的にフォーラムの成果などをPRする方策を検討する。 | <p>※コロナの影響により、地域連携学生フォーラムの開催は中止。</p> | <p>未実施のため、評価なし</p> <ul style="list-style-type: none"> （地域連携学生フォーラム） ・プラットフォーム形成大学の学生自らが行っている地域活動（ゼミやボランティア活動等）について発表し、交流を深める機会としているが、コロナの影響によりやむなく中止となった。次年度は、オンラインでの開催も視野に入れて、検討を進める予定である。 |
| <p>（大阪中高生サマー・セミナー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム形成大学の協力を得て、中高生の夏休み期間中にセミナーを実施する。 ・講座提供大学と大学コンソーシアム大阪の役割分担を明確にし、府下の中学校、高校への周知など中間支援組織として取組可能な形でプラットフォーム形成大学を支援する。 | <p>※コロナの影響により、大阪中高生サマー・セミナーの開催は中止。</p> | <p>（大阪中高生サマー・セミナー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、中学校・高校の夏休みのスケジュールが流動的になり、また大学としても準備が整わないため、やむなく中止とした。 ・事態終息がいまだ不透明なことを受けて、来年度は各大学が夏休みに中高生向けのプログラムを実施する場合、その情報収集、一元化して大学コンソーシアム大阪から学校へ情報発信するといった暫定的な取組に代えることとしている。 |

課題6 学生ボランティア事業の充実

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|-----------------|---|--|--|
| 6.学生ボランティア事業の充実 | ・学生ボランティアの育成とゴールデン・スポーツイヤーズ等における学生ボランティア事業を充実させる。 | (取組1) <国際イベントへの学生参加の検討> ・ゴールデン・スポーツイヤーズ(2019-2021)による外国人来訪の増大に伴い、学生による通訳やイベントサポートなどのボランティアの派遣に関し、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。 ・大阪国際万博(2025年度)誘致にあたり、本プラットフォームとしての参画の可能性について検討す | (取組1の活動指標) ・学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームとしての方針・企画案の策定及び実施 |
| | | (取組2) <観光・集客にかかる学生参加の検討> ・自治体からのニーズに基づき、観光・交流にかかる事業企画などについて、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。 | (取組2の活動指標) ・観光・集客や子ども支援にかかる学生参加の企画案の策定 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) | |
|---------------------------|---|--------|---|
| 【取組1】 国際イベントへの学生参加の検討 | <p><万博への参画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・万博協会との意見交換を行い、協会の進める「TEAM EXPO 2025」に関する情報を収集、参加を検討。 <p><オンラインプラットフォーム構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア意識の醸成を図るため、まずは学生が集って交流や活動ができる場として「オンラインプラットフォーム」の構築に取り組むことを検討、3月に学生座談会を開催予定。 ・オンラインプラットフォーム構築にあたり、「つながるキャンパス」を運営するNPO法人G-net1にヒアリングを実施した。 | III | <p><万博への参画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・万博協会が進める「TEAM EXPO 2025」は、人々が協働して「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGsの達成に貢献するための活動を推進する取組であり、この間、本プラットフォームにおいてもSDGsを軸にした様々な事業を展開している。このような取組を万博と紐づけ活動していくことは万博参画への第一歩であり、まずは既存事業を「TEAM EXPO 2025」へ登録していくことから進めていきたい。 <p><オンラインプラットフォーム構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア意識の醸成を図るため、まずは学生が集って交流や活動ができる場として「オンラインプラットフォーム」の構築を検討している。 ・その第一歩として、2021年3月に「インカレ学生座談会」をオンラインで開催し、コロナ禍での大学生活の困りごとを共有しながら新しいことに取り組みたい学生を募り、意見交換の場を設けた。今回はまずはオンラインを活用した場づくりに着手したが、今後学生主体の活動に発展するよう継続した取組としていきたい。 |
| 【取組2】 観光・集客にかかる学生参加の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携担当者情報交換会等を通じて、自治体のニーズを共有する場を創出し、具体的な事業への展開について検討する。 <p>・取組1のオンラインプラットフォーム構想と同じ。</p> | III | <ul style="list-style-type: none"> ・取組1のオンラインプラットフォーム構想と同じ。 |

課題7 社会との多様な接点の創出によるアクティブ・ラーニングの充実

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|-------------------------------------|-----------------------------------|--|--|
| 7.社会との多様な接点の創出による アクティブ・ラーニングの充実 | ・産業界や自治体と学生との協働の 機会をコーディネートする。 | (取組1) <学生による企画・運営事業の創出> ・自治体や産業界などとの協働による学生の事業 企画について、本プラットフォームとして自治体や 産業界などにアプローチする。 | (取組1の活動指標) ・アクティブ・ラーニングの先行大学を調査し、プラットフォーム共通 のプログラムを企画・実施する。 |
| | | (取組2) <学生による成果発表の場の創出> ・本プラットフォームが支援するアクティブ・ラーニ ングの成果の発表について、広く社会に発信できる 仕組みを具体化する。 | (取組2の活動指標) ・アクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信で きる仕組みを検討のうえ、実施する。 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) |
|---|--|---|
| <p>【取組1】 学生による企画・ 運営事業の創出</p> <p>(AI講座の実施) ・昨年度試行したプログラ ムの検証を行い、単位互換科 目としての展開を見据えなが ら調整、実施する。</p> <p>(起業インターンシップ・プロ グラム(新))の検討 ・(公財)大阪産業局と連携し た起業インターンシップの実 施を検討する。</p> | <p>(AI講座の実施) ・講座の充実化を図り、単位互換化 を見据えた具体プログラムを検 討し、次年度の試行準備を進 めた。</p> <p>(起業インターンシップ・プロ グラム(新))の検討 ・大阪イノベーションハブと の連携で「起業インターンシ ップ」のプログラム開発に 着手し、11月実施した。</p> <p>【受講者数】 7大学14名</p> | <p>IV</p> <p>(AI講座の実施) ・前年のAI講座の試行を受 けて、受講者からは継続を希 望する声や、大学教職員から も学内のカリキュラムに組み 込みたいなどの感想が寄せら れ好評を得たため、今後の単 位互換化を見据えたオンライ ンプログラムを検討中である。 ・なお、今年度は昨年行っ たAI講座をプラットフォーム 主催のSD研修として10月に オンラインで開催した。</p> <p>(起業インターンシップ・プロ グラム(新))の検討 ・「起業」という新たな視 点から「働く」ことを考える 機会提供として、本プログラ ムを新たに企画を行い、計 画を先行して試行できたこと は高く評価できる。 ・Osaka Innovation Hub と協議を重ね、大阪で活躍す る起業家の体験談を聞きなが ら、グループでSDGsをテ ーマにビジネスアイデアを提 案するといったテーマを設 定するといった、プラットフ ォームならではのプログラ ムとすることができた。</p> |
| <p>【取組2】 学生による成果発 表の場の創出</p> | <p>・課題6 取組1とも連動し、 オンラインによる発表の場 も含めて検討を行った。</p> | |

課題9 SD研修の更なる充実

【参考】中期計画（2017～2021年）

| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 |
|--------------|---------------------------------------|---|---|
| 9.SD研修の更なる充実 | ・プラットフォーム形成大学の教職員の能力・資質向上を目指し研修を実施する。 | <p>(取組1) <SD研修の戦略的な実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム形成大学のニーズを踏まえて、初任者研修を充実させるとともに、研修プログラムを開発し、研修を行う。 ・プラットフォーム形成大学間で人材育成に活躍できる職員を育成する研修を企画・実施する。 ・「大学におけるリスクマネジメント」等をテーマとしたプラットフォーム形成大学間での定期的な勉強会を開催する。 | <p>(取組1の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修をはじめとした、各種研修・勉強会の継続実施:参加者10%増 ・研修プログラムを企画し、毎年1回以上実施する。 ・勉強会を毎年3回以上開催する。 |

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) |
|--|---|---|
| <p>【取組1】SD研修の戦略的な実施</p> <p>・プラットフォーム形成大学の教職員を中心とする自己研鑽や交流の場としての勉強会を継続実施する。</p> | <p>(各種研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の参集型に代えて、オンラインで開催。 <p>初任者研修</p> <p>【参加者数】</p> <p>16大学 36名 (うち会員外 2大学3名)</p> <p>前年23大学45名 (うち会員外3大学3名)</p> <p>参加者数 前年比80.0%</p> <p>インストラクショナル・デザイン研修(新)</p> <p>※2021年2月19日・26日開催予定</p> <p>【参加者数】</p> <p>13大学・団体24名 (うち会員外5大学・団体8名)</p> <p>(サロン)</p> <p>計3回開催</p> <p>【参加者数】</p> <p>延べ51大学98名 (うち会員外14大学14名、その他3名)</p> <p>平均参加者数32.6名</p> <p>前年延べ69大学119名 (うち会員外17大学・団体18名)</p> <p>平均参加者数39.6名</p> <p>平均参加者数 前年比82.3%</p> | <p>Ⅲ</p> <p>(研修全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの情勢から今年度はオンラインを主体とした実施へと方向転換を図り、オンラインツールの特性をうまく活用した研修を開催することができた。 ・いずれの研修も、研修部会推進委員が担い、プラットフォーム形成大学が連携した研修実施が実現できている。 <p>(初任者研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YoutubeやZoomを組み合わせた2日間の研修として開催した。オンラインでの開催は初の試みであり、事前課題の動画教材作成やオンラインでの実地研修など様々な工夫を凝らした結果、研修参加者の9割から研修内容に対し高い評価を得ることができた。 <p>(インストラクショナル・デザイン研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回初開催となった本研修は、教育活動の効果・効率・魅力を高めるための理論・モデル・技法の集大成であるインストラクショナル・デザインの基礎習得を目的に2日間にわたって2月19日・26日に開催した。 <p>(サロン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「働き方」をテーマとして2回、「発達障害のある学生への支援」をテーマに1回の計3回開催した。いずれのサロンもWithコロナの視点を交えながら、今後求められるあり方について講師から学び、また続いての情報交換会を通じてさらに学びを深める機会を提供することができた。 ・いずれのサロンもオンラインで開催したが、特にサロンはオンラインとの相性がよく、全国からの参加者も広く得られ、相互交流によりプラットフォーム形成大学職員にとっても刺激になったとの声が寄せられた。 ・参加者の内容に対する満足度は、すべての回で9割と高い評価を得ることができた。 |

課題10 その他

2020年度 自己評価

| 計画 | 実績 | 評価(現況) |
|---|--|--|
| <p>(公開講座等の継続開催) ・プラットフォーム主催の公開講座や社会人向け講座を検討・開催する。</p> <p>(就職に困難性のある学生支援の継続検討) ・産官学連携での課題解決に向けて、会員大学教職員の参画を得ながら検討を進める。</p> | <p>・公開講座 「Withコロナ時代の新たな産官学連携 ～ Society5.0時代の連携の在り方とは～」 (2020年10月開催) 【参加者数】 63名</p> <p>・プラットフォーム活動報告会の開催 (2020年10月開催) 【参加者数】 32名</p> <p>・PF形成大学間の部門担当職員間による「シェアトーク」を開催。</p> <p>・国際交流部門(2020年9月開催) 【参加者数】 11大学13名</p> <p>・地域連携部門(2020年10月開催) 【参加者数】 5大学5名</p> <p>・日本インターンシップ学会関西支部研究会の共催</p> | <p>Ⅲ</p> <p>(公開講座) ・今般のコロナ禍をきっかけにオンライン社会への加速度的な移行が進んでいる中、新たな繋がりや在り方について岐阜での先行事例を学び、今後の方向性を産官学で共有することができた。</p> <p>(活動報告会) ・プラットフォーム発足後、2年が経過し、この間の活発な活動状況と今後の展望について広く発信することができた。</p> <p>(シェアトーク) ・刻々と変化するコロナの情勢に各大学とも対応に苦慮する中、リアルタイムの情報交換の場として、「シェアトーク」を実施し、部門ごとの課題や先行事例を実務担当者レベルで共有することができた。また今後必要となる横のネットワーク構築にも寄与できた。</p> <p>(日本インターンシップ学会関西支部研究会) ・プラットフォーム形成大学でのインターンシップ活動をコロナ禍の対応状況を交えながら、広く発信・共有することができた。</p> <p>※就職に困難性のある学生(発達障害のある学生、または疑われる学生)の支援については、課題9取組2で、テーマとして取り上げ情報共有した。</p> |